

# 令和5年度病害虫発生予察特殊報第4号

令和5年10月6日

千葉県農林総合研究センター長

## トマトキバガの確認について

1 害虫名：トマトキバガ

2 学名：*Tuta absoluta* (Meyrick)

3 作物名：—

4 発生確認の経緯及び国内での発生状況

(1) 令和5年9月28日、千葉県農林総合研究センター病害虫防除課が県内のトマト生産ほ場に設置しているトマトキバガフェロモントラップに、疑義成虫が誘殺された（写真1）。

(2) 農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、10月3日に県内未発生であるトマトキバガと同定された。

(3) 本虫は、令和3年11月に熊本県で特殊報が発表された後、宮崎県から北海道までの計26道県で発生や誘殺が確認されている（令和5年10月3日現在）。

(4) 県内では本虫による農作物での発生及び被害は確認されていないが、その後も継続的に疑義成虫が誘殺されている（図）。

5 特徴

(1) 形態

成虫（写真2）は、翅を閉じた静止時で体長5～7mm（前翅長約5mm、開張約10mm）である。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在し、後翅は一律に淡黒褐色である。

幼虫（写真3）は、終齢で約8mmとなる。体色は淡緑色～淡赤白色で、頭部は淡褐色である。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある。

(2) 生態

1年に複数の世代が発生し、雌は一生のうちに平均約260個産卵することから繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、年に10～12世代発生する地域もある。卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度だが、気温が低い時期はさらに延びる。

成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多い。卵は、寄主植物の葉の裏面などに産み付けられる。幼虫は1齢から4齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。

(3) 被害

ナス科植物が主要な寄主植物であるが、マメ科であるインゲンマメも寄主植物として確認されている。

トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる（写真4）。果実では、幼虫が穿孔侵入して内部組織を食害するため、果実表面に直径数mm程度の穴が空いて腐敗する（写真5）。

6 防除対策

(1) ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。

(2) 施設栽培で防虫ネット未設置の場合は、コナジラミ類対策も兼ねてハウスの開口部に0.4mm

目合いの防虫ネットを設置し、本虫のハウス内への侵入を防止する。

(3) 発生を拡大させないため、表を参考に薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋却するか、ビニール袋などに入れて一定期間密閉して寄生した成幼虫を全て死滅させてから適切に処分する。

なお、薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統（IRACコード）が異なる薬剤のローテーション散布を行う。

※ トマトキバガの発生が疑われた場合は、管轄の農業事務所または病害虫防除課に連絡する。

表 トマトキバガに散布で使用できる農薬（令和5年9月29日現在）

※ IRACコード：殺虫剤の作用機構分類

IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の 使用回数	散布液量 (L/10a)	適用作物	
						トマト	ミニトマト
5	ディアナSC ラディアントSC	2,500~ 5,000倍	収穫前日まで	合計 2回以内	100~300	○	○
	ダブルシューターSE	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	100~300	○	○
6	アグリメック	500~ 1,000倍	収穫前日まで	3回以内	100~300	○	
	アフーム乳剤	2,000倍	収穫前日まで	5回以内	100~300	○	○
11A	エスマルクDF	1,000倍	発生初期 (但し、収穫前日まで)	—	100~300	○	○
13	コテツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	100~300	○	○
22A	トルネードエースDF	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	100~300	○	
22B	アクセルフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	3回以内	100~300	○	○
28	フェニックス顆粒水和剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	100~300	○	○
	ベネビアOD	2,000倍	収穫前日まで	3回以内	100~300	○	○
	ヨーバルフロアブル	2,500倍	収穫前日まで	3回以内	100~300	○	○
30	グレーシア乳剤	2,000倍	収穫前日まで	2回以内	100~300	○	○
UN	プレオフロアブル	1,000倍	収穫前日まで	2回以内	100~300	○	○

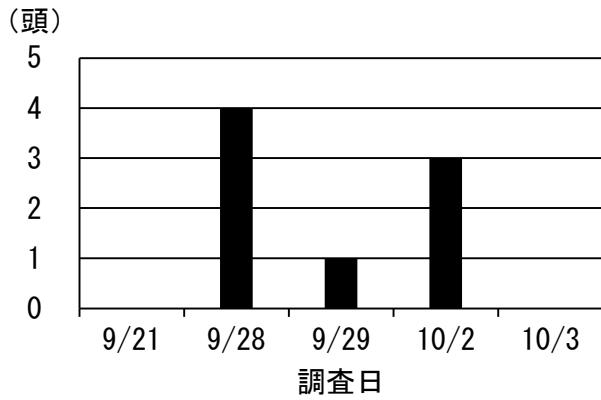


図 疑義成虫のフェロモントラップ誘殺数



写真1 誘殺された雄成虫 (線の幅は約1mm)



写真2 成虫



写真3 幼虫



写真4 トマト葉の被害



写真5 トマト果実の被害

※写真1 千葉県農林総合研究センター原図

写真2～5 農林水産省横浜植物防疫所原図

- ・病害虫発生予察情報は、インターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

